

群読「あらしのよるに」練習始まる！

今年の群読は、きむらゆういちさんのベストセラー「あらしのよるに」の第1章(巻)です。このシリーズは当初、第1巻だけ刊行されましたが、読者の声援に押されて10年余り書き続けられ、第7巻で完結となりました。今回は、その全7章のハラハラどきどき、波瀾万丈の筋書きをまとめてたどるのではなく、原作の文言を大切にするために、あえて第1章だけを扱うことになりました。

その練習が、最初の顔合わせに続いて、7月2日に、3名の子どもたち(6才、1年生、4年生)を含め、40名近くで、にぎやかに行われました。さらにこの日は、二匹の主人公(狼のガブと山羊のメイ)

を表現する太鼓と篠笛の演奏者(ユニット「凜」)にも加わっていただきました。嵐を表現する効果音も含め、心に響き、しみわたるすばらしい音響・音色で、参加者全員びっくりしました。プロとしての演奏・指導で忙しいお二人ですができるだけ協力したいと言っています。ということで、皆さん力をあわせてすばらしい群読を届けてくれるでしょう。

*なお、群読練習はこの後、8月6日(日)、9月2日(土)と続きます。参加希望者は 058-231-9845 (座馬)まで。



群読に参加して① あらしのくる前に

疎開先で机を並べた友人の訃報を聞く。空襲の恐怖、飢えの苦しみを体験した世代が減っていく。頭や足がふらつき、体調を崩してはいるけれど、週数回、小学校での読み語りを続けている。瞳を輝かせ、本の世界に遊ぶこの子たちの心を壊してはならない。戦禍に巻き込んではいけないと強く思う。

そして、「九条」を守ろうと「つどい」に参加する人との再会に、メイとガブが背を押してくれているようだ。(松岡頼詩子)



群読に参加して② 想像する楽しさと緊張感でいっぱい

9回目の群読が「あらしのよるに」と聞いて驚きました。なるほど誰にもしたしみやすく、わかりやすく、それでいて深く考えさせられる題材です。ハイトスピーチも横行する今、これを群読でと発想する人は凄い！でもどうやって表現すのかしら？ 私の心はザワザワと騒ぎました。

常づね早トチリの私は、勝手に「完全版」と思いこみ、構成・脚色に興味津々で出かけたのですが、頂いた台本の表紙にはなんと「第一章あらしのよるに」とありました。本音を云えば少しがっかりでした。まるで異質な狼と山羊が様々な葛藤をのり越えていく(時には本能が理性をこえて苦悶する狼の描写はたまらなくいい)劇的なシチュエーションを期待していたからです。

・・・でも、待てよ。そうかなるほど・・・作者の魂こめた一言一句を大切に、第一章だけを提起すれば、その後の展開を自由にふくらませ深め合うことができるかもしれない。私も考えてみたいかと、納得しました。

2回目の稽古には早くも和太鼓と篠笛の方が来て下さいました。朗読の個性豊かな面々に、小1になったサトリ君たちも加わって、これから演出の浅井さんがどんな風に調理して下さいるのか本当に楽しみです。

当日、原作者を前にしてどんな表現ができるのか、私の頭はあれこれ想像する楽しさと緊張感でいっぱいです。(田村満里子)

戦争なんか大きらい・絵描きたちのメッセージ展！

今年のフロント展示は、きむらゆういちさんをはじめ、「子どもの本・九条の会」会員63名の絵本作家たちが描いた平和のメッセージ展です。かこさとし、田島征三、長谷川義史とか著名な絵本作家たちと並んで、きむらゆういちさんの作品は、「美味しいバクダン」と題し、「鉄砲はチョコ、弾はピーナツ。そんなふうになればいいのに」と、ユーモアたっぷりに武器を描いたものです。

他の作家たちの作品はどういうものかな・・・たいへん楽しみです。家族連れどうぞ。

*会場に駐車はできません。車で来場の方は、岐阜市役所近辺、柳ヶ瀬地域の民間駐車場を利用願います。

